

非常(停電)時に**最低限の電力を確保** —太陽光発電・蓄電池設備の整備—

東日本大震災や原子力発電所事故を踏まえ、災害に強い自立・分散型エネルギーの重要性が高まっています。県環境政策課が推進する再生可能エネルギー導入促進事業により、災害時の防災拠点や避難所等に太陽光発電および蓄電池設備の整備を進めています。

整備例 (防災拠点)



常陸大宮土木事務所
太陽光(20kW)蓄電池(15kWh)



潮来保健所
太陽光(20kW)蓄電池(15kWh)

- 太陽光発電電力量(1日当たり / 年間)
- 15kW (約 41kWh / 約 15,000kWh)
- 20kW (約 54kWh / 約 20,000kWh)
- 60kW (約 164kWh / 約 60,000kWh)
- 100kW (約 274kWh / 約 100,000kWh)

ちなみに、一般的な戸建住宅の場合、(パネル能力3~5kW)1日当たりの発電電力量は、約8~13kWhだよ。



非常時に、最低限の電力を確保するとともに、平常時には、発電した電力を自家消費することにより電気代の削減に寄与します。

整備例 (避難所等)



カシマサッカースタジアム
太陽光(100kW)蓄電池(100kWh)



つくば国際会議場
太陽光(60kW)蓄電池(50kWh)



白浜少年自然の家
太陽光(20kW)蓄電池(15kWh)



中央高等学校
太陽光(15kW)蓄電池(15kWh)